

# コミュニティ女性部 視察研修に行ってきました

年度末の押し迫った三月二十四日、コミュニティ女性部二十名で、佐賀市三瀬村の「直販所マツちゃん」に視察研修を行いました。経営者である「代表取締役合瀬マツヨ」さんから説明を受けました。

平成三年に道路の拡張工事等で工事現場として水田を貸したのを機会に、福岡市も近くなったことから、人口千四百人の山村で標高四百メートルの寒いところで、これとしたものがなく地域の活性化につなげたいとして夫婦で小さな直販所を立ち上げた。二十年経った現在は建て増しや駐車場の整備を行い、従業員二十八名のうち八十パーセントが村の主婦で加工品や野菜の直販を行っており、特に野菜では生産者の登録者八百名、その外に自家農園では八名の



研修生を受け入れ出荷をしている。

特徴的なことは  
①手造りの直販所である。

建物を作る時は国なり町等から補助があるかどうかが先ず頭に浮かびますが、行政等には頼らず最初はテントから始めて手造りで建て増しを行い、そのため寒い冬は周囲に

## コミュニティ推進事業で、倉庫の設置

旧自治会館の倉庫などに収められていたテントや草刈機など、主に屋外で使用するものを収納するための「簡易倉庫」を、新自治会館駐車場に設置しました。

これは、平成22年度童話の里コミュニティ推進事業で行ったもので、倉庫の他に「スリッパ」と行事の際に使う「のぼり」を購入しました。



②野菜の品揃えが多い。

ビニールをかけ、大きなストープには薪をたくようにしていました。説明では、端境期は市場からも仕入れているとのことで、三瀬村で生産されていない「いちご」や「とまと」も出荷されていました。地元産を優先させることは当然ながら端境期にはお客さんのニーズに応える取り組みがされていました。

③加工品に力を入れていた。

村の主婦の人に来てもらい加工品づくりをして販売。また食堂も併設してその場で食事ができるようにしていた。その他に佐賀市富士町の「昭和の学校元気村」での廃校を利用しての水耕栽培状況等見学して帰路につきました。

## 自治会館に AED設置



玖珠自治会館の玄関サードコーナにAED(自動体外式除細動器)を設置しました。

先日、日頃から自治会館を利用される方を対象に、講習会を行いました。

装置の使用方法や心臓マッサージの大切さなどの指導を受け、参加者からは注意事項などの質問が出ていました。

ほとんどの公共施設や大型商業施設には、AEDが設置されているので、もしもの場面に遭遇した時には、落ち着いて行動したいものです。